



学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/byobugaura/>

1 月 号
令和 4 年 1 月 7 日
横浜市立屏風浦小学校
校長 海老原 眞

生き方から学ぶ



海老原 眞

明けましておめでとうございます。
今年もよろしく願いいたします。

2022年、今年は寅年（とらどし）です。『寅』という字には、本来『まっすぐに伸ばす・引っ張る』という意味があり、十二支の中で三番目になる『寅』が迎える年は、子年に種の中で芽生え始めた新しい命が、丑年で種の中で着実に育ち、寅年に春が来て根や茎が生じて成長する時期、草木が伸び始める状態だと解釈されています。過去の出来事を紐解いてみても、寅年には、Windows 98が発売されたり、日本が初めてワールドカップに出場したり、横浜ベイスターズが38年ぶりに優勝したりと、新しい発想の製品やサービスが生まれ、初めての出来事も多く起こっています。どれにも寅年の『芽吹いたものが成長する・目立つ』という傾向が反映されているようにも思えます。まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大のおそれが払拭できない中、今年の寅年は、ぜひ新しい芽が成長し、コロナ後の新しい日常が始まる年になってほしいと心から願っています。

さて、2学期の終業式では、あの『アンパンマン』の作者やなせたかしさんの生き方をもとに『継続して取り組むこと』の大切さを話しました。やなせさんの生き方については、現在の国語の教科書に伝記として掲載されていて、5・6年生の子どもたちはすでに学習している内容であり、低学年の子どもたちでも、身近な『アンパンマン』を通して、その生き方から学べるものがあると考えたからです。

やなせさんは、34歳でようやく漫画家としてデビューし、長い間の鳴かず飛ばずの時代を経て、50歳の時に『アンパンマン』を描き始め、1973年、54歳の時にやっと「あんばんまん」という絵本を出版できたそうです。でも、出版当初の評判はさんざん。特に、大人たちからの評判は悪かったそうですが、それでもやなせさんは、一方で舞台演出など様々な仕事を行いながら、もう一方で人気の出ない『アンパンマン』を強い信念をもって一生懸命に描き続けていたそうです。そして、やなせさんが描き始めてから実に20年後の70歳になる直前、アニメ化の話が持ち込まれ、それから一気にブレイクした『アンパンマン』。やなせさんの生き方は、自分の夢や信念を実現させるために、まさしく『継続は力なり』という言葉にもある通り、一つのことをあきらめないで思いを込めてやり続けることの大切さを教えてくれている生き方だと改めて感じます。

人の生き方から学ぶ機会は、意識していないと普段の生活の中ではなかなかない機会かもしれません。だからこそ、伝記として教科の中で学ぶ機会や、人から紹介されて興味をもって学ぶ機会があることは、自分自身の生き方や在り方を見つめ直す良さにつながるのではないかと思います。そして、それが、さらには現在の学習指導要領で目指している、学びを人生や社会に生かそうとする『生きる力』の育成と、根底でつながっているのではないかと実感しています。

3学期は、各学年のまとめをするとともに、次の学年に向けて着実に備える時期です。今後も学校として、継続して取り組むことを大切にしながら、力を尽くしてまいります。感染状況に気を配りながらの日々が続きますが、今学期もどうかよろしく願いいたします。